

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-036860

(43)Date of publication of application : 29.02.1984

(51)Int. Cl.

G06F 15/00

(21)Application number : 57-146781

(71)Applicant : NITSUKO LTD

(22)Date of filing : 26.08.1982

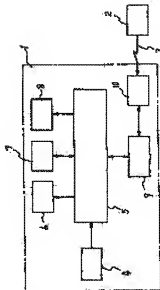
(72)Inventor : IWAMA TERUHIKO

## (54) METHOD FOR DISCRIMINATING RELUCTANT DATA INPUT

## (57)Abstract:

PURPOSE: To prevent the input of reluctant transaction due to exaction and to prevent the unjust use of a card by dividing the secret number of the card into main and sub numbers, and when the subnumber is inconsistent in spite of the coincidence of the main number, making a computer execute false data processing.

CONSTITUTION: When a sub-secret number registered as a number consisting of plural digits is inputted from an input part 4 and then a main secret number consisting of plural digits is inputted, only the sub-number is displayed 6 through a microprocessor 5 and the main number is displayed so as to be prevented from others' steal glance. Once stored 7, both secret numbers and data related to transaction are sent to a host computer HC2 in accordance with the indication of the microprocessor 5 and then only the sub-number is returned from the HC2 and displayed on a position following said display. When both the main and sub numbers coincide with each other, the input transaction is processed. At the inconsistency of the sub-number the HC2 executes false data processing. When input is exacted from other persons, danger and unjust use of the card can be prevented by inputting a false sub-number.



⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑮ 公開特許公報 (A)

昭59-36860

⑯ Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 06 F 15/00識別記号  
1 0 2庁内整理番号  
6649-5日

⑰ 公開 昭和59年(1984) 2月29日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑱ 不本意なデータ入力の種類方式

川崎市高津区北見方260番地D

本通信工業株式会社内

⑲ 特 願 昭57-146781

⑳ 出 願 人 日本通信工業株式会社

㉑ 出 願 昭57(1982) 8月26日

川崎市高津区北見方260番地

㉒ 発 明 者 岩間峰彦

明 細 書

## 1. 発明の名称

不本意なデータ入力の種類方式

## 2. 特許請求の範囲

計算機システムとデータ入力装置装置の間で呼  
 称番号を照合する個人識別方式において照合番号  
 照合番号と照合番号とからなり、計算機システムは照合  
 装置により照合番号が一致した場合のみ正しい  
 データ処理を行い、照合番号が不一致の場合は  
 誤りのデータ処理を行わしめることを特徴とする  
 不本意なデータ入力の種類方式。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は照合番号でデータの入力を検出装置され  
 た場合にデータ入力装置に照合することにより、  
 誤差を最少限に止めるための不本意なデータ入力  
 の識別方式に関する。従来の個人識別方式は使用場  
 所が公共性のある場所では不本意多数の照合を想定  
 しているため、誤認防止の方法としては使用者が入

力する照合番号を照合装置にチェックすればよい。

しかしながら従来のこの種の方式を使用した装置が汎用化  
 され個人所有となり、公共性のない家庭等で使用が実現  
 した場合、個人の作業効率により入銀行から銀行への  
 決済時の操作がなされる照合に列しては本人が危険にさら  
 されるため、余儀なく照合番号を入力するので照合番号  
 の照合番号のチェックだけでは危険防止の効果が無い欠点  
 がある。

本発明はこの欠点を無くするため照合番号として個人識別  
 の照合番号の他に本人の意思に基づく入力データ  
 で、正常な入力データか脅迫装置による入力データかを  
 識別するための照合番号を設けて、照合番号の正  
 否に拘らず照合システムは入力データを処理しようとし  
 ない、本人に要われることなく、照合番号を促進し見  
 かけ上のデータ処理を行わしめる方式を特徴とする。

次に図に基づき詳細に説明する。

第1図は本発明の一実施例を示すブロックダイアグラム  
 である。1はデータ入力装置、2は計算センター  
 内に設けられた計算機システム、3は通信回線、4はプ

## 2/17/2009 3:06 PM

特許第59-36864(3)

れ、秘密を最少限に止めるとともに該商標を秘密所有者の者の保護をかわすことができるため今後知々商標を改定することの間のデータ処理を円滑に保てる状態に對して大きな効果が期待できるものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一例態を示すブロックダイアグラム。

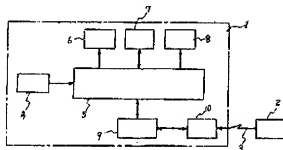
第2図(A)は組合番号の表示の一態例、(B)は組合組合番号の入力時と計算機システムからの返答時とを比較表示した一態例。

- 1 データ入力端末機 2 計算機システム
- 3 組合組合 4 データ入力部 5 マイクロプロセッサ
- 6 表示部 7 記憶部 8 プリンター
- 9 データ送受信部 10 図面インターフェース

特許代理人  
日本通商工務株式会社  
代表者 山田 廣



第1図



第2図

